

大野市小中学校再編検討委員会検討事項の論点整理

論点	教育委員会の方針	検討委員の意見	方向性（委員の考え）
1 学校数 (1) 中学校	複数学級による編成とする。 生徒に過度な負担等が想定される場合は、別途検討する。	① 当分の間、2校案で進み、10年後の生徒数を鑑みて、再度再編を検討する。 ●（委員長補足）当分の間2校にするも、原則「※大野市小中1校体制」により、遠隔による合同授業や、部活動の連携、教員数の少ない教科の連携等に努める。 ※大野市小中1校体制 市内の小学校、中学校を一体的にとらえて、同じ時間割、カリキュラムなどにより、今よりもさらに学校間の連携を行いやすくする体制 ② 5校を1校に再編する。 ③ 全学年4学級でないと、専門教科教員が配置されない教科がある。	
(2) 小学校	複式学級を解消する。 学級編制は複数学級が望ましい。 児童に過度な負担等が想定される場合は、別途検討する。	① 複式学級の解消を目指したほうが良い。 ② 少人数学校のメリットを生かした教育を進めるほうがよい。 ③ 複式学級が出現したり、出現する見込みとなったら再編する、といった基準を設けてはどうか。	
(3) 和泉小中学校について		① 通学時間、距離が児童にとって過度な負担となることが想定されるため、小学校は残したほうが良い。 ② 他地区と同様に、小学校、中学校ともに再編する。 ③ 中部縦貫自動車道の整備やICT教育などの状況を見定めたうえで、保護者や地区住民の意思を確認し学校再編を検討する。	

2 再編時期	慎重に丁寧に、着実に進める。	<p>① 再編してもその後の児童生徒数の減少が続き、更なる再編検討の必要性があることから、段階的に進める。</p> <p>② 中学校は1学年1学級、小学校は複式学級となる学校の再編を喫緊の課題とする。</p> <p>③ 中学校は、令和5年度をめどに再編に取り組む。</p>	
3 再編方法 (学校校舎)	校舎の現状を勘案する。	<p>① 段階的に再編を進める場合は、校舎は現行の校舎を可能な限り使用する。</p> <p>② 今後も児童生徒の減少が続くことから、しばらくは改修にとどめる。</p> <p>③ 新築する。</p>	
4 学校の教育内容と地域を支える機能	ふるさと教育に重点的に取り組む。 外国語教育やICT教育を進める。	<p>① ふるさと教育をさらに前進させ、大野の明日を創り出すことに取り組む「未来の大野市民の育成」を目指した独自教育を実施する。</p> <p>② 児童生徒に一人一台のタブレット端末が整備されるようになり、どのように学校や教育が変わるのか、モノや時代が変わっていくということも考えるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (委員長補足) G I G Aスクール構想を実現するとともに、遠隔授業の設備を整え、和泉地区との連携を含め、その他小規模校との合同授業を進める。 ● (委員長補足) 大野市の人口減少を食い止めるには、リモートワークの先進地になることであり、そのための教育資源としてもE d T e c hの先進地域となる。大型モニターの設置により、授業だけでなく、学校生活の共有も実施し、協働と進取の気象を持った大野市民の育成に努める。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ● (委員長補足) 遠隔授業の恒常化を進めるためには、小中すべての学校が一丸となって取り組む必要があり、原則「※大野市小中1校の体制」を構築する。 ③ 部活動に関しては、大野市全域を対象とした各種目別クラブチームの育成を進め、その活動の場を保証するよう福井県に働きかける。 ④ 学校は地区の心のよりどころである。地区にある公民館などとの連携をこれまで以上に進め、一体的に地区を支える仕組みを構築する。 ⑤ 学校の再編の有無にかかわらず、放課後の児童の居場所（児童センターや学童保育）を構築する。 ⑥ 学校給食は、児童生徒の栄養管理のみならず、子どもの豊かな生活の指標ともなることから、自校給食を継続する。 ⑦ 大野市の教育を充実させるために、大野市出身の教員が必要であり、その確保に努める。 	
--	--	--	--

その他

学校の適正規模の「適正」を、議論してベターな状態ということについて一致点を見つきたい。

スクールバスを利用する場合でも、部活動を終えてからの帰宅時間が午後7時を超えることは遅いのではないか。

学校を共同生活、社会生活を学ぶ場として、一定の規模が必要。

学校での教育（ソフト）に関しては、再編の形が決まってから、それぞれの学校で考えればよい。